

# CHIZAI LETTER




発行日 2004 / 10 / 20



© kero916

## 地域共同研究開発センター長挨拶

### 知的創造サイクルの確立に向けて



本年度4月から、国立大学はすべて法人化され、われわれも国立大学法人山口大学としてスタートしました。法人化後は、これまでも増して、大学が個性を発揮することを期待されています。山口大学では、産学公連携を特徴のひとつとして、これをますます推進いたします。産学公連携における共同研究では、その成果として知的財産が創出されます。法人化後は、知的財産は大学に機関帰属されるため、特許の登録、権利化、移転などを大学は組織として取り組んでいかねばなりません。産学連携リエゾン活動から共同研究を通じた特許の創出支援は地域共同研究開発センターが中心となって進め、知的財産本部は特許の登録、権利化、移転を担い、山口ティール・エル・オーとともに緊密に連携して山口大学の知的創造サイクルを確立したいと考えています。

(文：産学公連携・創業支援機構 地域共同研究開発センター長 清水則一)

CONTENTS	
地域共同研究開発センター長挨拶 知的創造サイクルの確立に向けて	1
発明と「私」 大学での知財とその活用	1
今日は何の日?	1
知的財産本部 秋のスケジュール	2
食品・農学・理学を中心とした 知財セミナー	2
知財英語ミニ講座	2
イノベーション・ジャパン2004	3
徒然日記 九月は日奈久で山頭火	4
今月のSMILEさん	4

## 今日は何の日? (10月23日)

### トンネル効果を発見した 江崎玲於奈のノーベル物 理学賞受賞が決定した日



江崎氏はコンピュータの命である半導体の研究に取り組み、1957年に電圧と電流の間に「トンネル効果」という独特な現象があることを発見しました。「トンネル効果」とは、電子がエネルギーの壁をすりぬけてしまう現象で、これを半導体で解明し、理論づけをしたのが大きな功績でした。彼はこの理論を基に、「エサキダイオード」を発明しました。この発明は日本より海外で高い評価を受け、江崎氏の半導体研究は、トンネル分光学という新分野の学問を生み、「超伝導物質」を誕生させる基となり、

1973年に(我が国4人目)  
ノーベル物理学賞を受賞  
しました。



江崎さんは、日本19件、米国33件、欧州23件の特許出願をしておられます。


(2002年10月迄)

江崎氏の経歴  
東京大学で物理学を学び、神戸工業、ソニーに勤務、1960年にIBM社ワトソン研究所に入所、筑波大学学長を経て、現在は芝浦工業大学学長である。

(文：坂野 文恵)

## 発明と「私」

### 大学での知財とその活用



この10数年を振り返ると私自身の活動が“特許”に関係して大きく展開しています。もともと理学系で理論的に電子物性を研究していた私には、特許は遠い存在でした。工学部にいることで多少私の専門に近い分野の先生方の特許申請を横で見ている“すごいなあ”と感じていました。ただ、そのうち、特許は研究論文と大きく異なることがわかってきました。いずれも世界で初めての内容が必要ですが、研究論文だとデータをきちんと集め、詳しい内容で提示する必要がありますが、特許だと世界で初めての発明であることを説得出来る内容であれば、データは少しでも(場合によっては無くとも)申請出来ることを知った時は一種のカルチャーショックでした。

工学部に長くいるうちに学問、社会とのかわり意識が自然に変化しました。役に立ちそうな分野に、学問的にも基礎的な立場から展開すべき課題が多くあること、特に先端的な分野ではその面が強いことで、私自身の研究展開が自然に応用とも強く関係していきました。新しい研究室の立ち上げや山口TLOの設立運営にかかわる中で、研究室教官の全面的な協力とその成果の一部を特許申請し、それらをベースに国等のプロジェクトの応募、採択、実施、また最近では企業化の検討と展開していきました。これらは、“大学が研究環境整備については自分で出来るだけ努力することが求められつつある”状況も関係していますが...

(文：(有)山口TLO取締役・機能材料工学科 教授 松浦 満)



## 【9月の主な出来事】

- ・9/1 農学部・理学部特別講義 (吉田キャンパス)
- ・9/9 第2回元気企業サポート委員会 (ホテルかめ福)
- ・9/16 知財活用方策研究会 (経産省)
- ・9/17 大学知的財産戦略研修会(九州ブロック) (KKR赤熊本)
- ・9/28~30 イノベーション・ジャパン2004出展
- 9/30 知財管理・技術移転協議会 (東京国際フォーラム)

## 【10月の主な出来事】

- ・10/2,3 「まち」=「大学」全国サミット (吉田キャンパス)
- ・10/13 中国ニュービジネス協議会講演 (ホテルJALシティー広島)
- ・10/14 知財管理体制構築シンポジウムパネリスト (神戸国際展示場)

- ・10/15,16 ちいき創生コラボレーションフェア出展 (常盤公園湖水ホール)
- ・10/27 第3回知的クラスター創成事業本部会議 (宇部文化会館)
- ・10/6,13,27 学内講義「知的財産権論」 (常盤キャンパス)

## 【11月の主な予定】

- ・11/11 中国ニュービジネス協議会講演(メルパルク岡山)
  - ・11/19 中国・四国地区「第2回大学知的戦略会」 (徳島大学)
  - ・11/29 中国技術振興センター講演 (鳥取厚生年金会館)
- (文：佐田洋一郎，加納好昭)



## 食品・農学・理学を中心とした知財セミナー

9月1日、吉田キャンパス人文学部・理学部管理棟4F会議室で、斉藤弘子先生による「食品・農学・理学を中心とした知財セミナー」がありました。

斉藤弘子先生は元理化学研究所研究業務部特許課に勤務されておられ、セミナーでは、食品・農学・理学系等分野を中心に、主に理化学研究所で制度化されていた特許の出願、管理、実施について、さらに医薬・食品分野では、研究者が、発明者だけでなく出願人になっている例、実際に企業で実施されている発明の例など具体的なお話や、これからの大学やTLOのあり方について示唆に富んだ実りのあるお話が聞けました。

## 斉藤先生のプロフィール

長崎県出身で、東京大学農学部を卒業後、食品会社で医薬関係の研究員を経て特許の仕事を始められ、その後、理化学研究所の特許部門で昨年9月末まで11年間勤務。ご家族は会社員のご主人とお二人の成人男子です。

趣味は、理研時代から始められたランニングと樹木観察だそうです。“文部科学省の駅伝大会に山口大学の襷で出場できたらうれしいですね。ランニングでは、レースに出場する度に自己ベストを狙います”とにこやかにお答えでした。

仕事に対しても、“ベストを尽くす”が、モットーだそうです。特許の扱いでは、どのくらい頑張れるかが、権利の大きさ、強さに関わってくるとおっしゃっておられました。

(文：斉藤弘子，坂野文恵)



斉藤弘子先生

講義風景



## 知財英語ミニ講座

## Fraud 詐欺，不正行為

米国では、特許庁を騙して、特許を取ると、その後ウソがばれた時、特許が無効になる。

米国では、先行技術説明書(Prior Art Statement)を出さねばならないが、気になる文献だけは言いたくないのが人情、ついつい知らんぷりして、あまり関係のない文献を、さも問題にしたように書いて、自分の発明が優秀であるかの如く主張すると特許が得られる。しめしめと知っている何人が、件の文献を「出願人は知っていた。」と申立てると、bad faith(悪意)であるとして、特許が潰れる羽目になる。ザマー看看ですね。

(文：奥 登志生)



9 / 28 ~ 30の3日間、経産省、文科省の共催により、東京国際フォーラムでイノベーション・ジャパン2004が開催されました。3日間の総来場者数は34,548人と主催者予想を大きく上回り、大盛況となりました。

山口大学関係の出展ブースでは、知的財産本部、山口TLO、大学研究室の3つのブースを隣接して設置し、効果的に活動状況、研究成果をアピールすることができました。

会場では、「大学総長と経営者等によるパネルディスカッション(9/28)」が開催されて、山口大学の三木工学部長が大学側パネリストとして参加されました。「大学知的財産本部整備事業報告会(9/29)」では、山口大学の整備状況について杉原副学長が報告をされました。

**知的財産本部のブース**では、知的財産本部の活動状況をパネルを用いて紹介するとともに、山口大学知財本部監修の知的財産教本の紹介を行い、好評を頂きました。また、このブースでは産学公連携の成果の例として、工学部電気電子工学科の田中幹也研究室の、尿を用いた自動健康診断システム、MRI下における定位脳手術・治療用穿刺ロボットシステムについて、パネル、サンプルを用いて紹介し、熱心に耳を傾けて頂きました。

**他のブースを代表して栗巢先生と松尾さんに出展の感想を頂きました。**

お揃いのはっぴを着て  
会場の注目をあびました



(左より) 殿岡さん, 松尾さん, 中西さん, 加納さん, 若佐先生, 西郷里さん, 栗巢先生 (水上先生, 山西さんは下記写真に)

**各ブースの様子**



**工学部機能材料工学科 栗巢普揮先生**

私たちの研究室\*から、「高性能真空装置」というタイトルで、イノベーション・ジャパンに出展いたしました。放出ガスを少なくすることで高性能化が図れるチタン製真空装置と電子サイクロトロン共鳴プラズマという新たなプラズマ発生手段を用いたECRスパッタ成膜装置について展示いたしました。期間中3日間で約80人程度の方々にブースに立ち寄って頂きました。このうち7割程度が民間企業の方でした。私たちの成果について、熱心に耳を傾けて頂き、中には導入を考えたいという方もおられ、大変有意義な展示会であったと思います。

\* 工学部機能材料工学科材料物性研究室と大学院医学研究科応用医工学系生体応用材料工学研究室

**お忙しい中、会場のブースにお越し頂きましてありがとうございました。**



**(有) 山口ティール・エル・オー 松尾知佳さん**

山口TLOの展示ブースでは、山口TLOの保有特許である「土砂災害警戒支援システム(工学部 古川教授)」、「遠隔講義システム(メディア基盤センター 刈谷教授)」、「実用酵母の栄養性変異株とその育種方法 お酒(工学部 赤田助教授)」、「人工肛門弁(応用医工 齋藤教授)」についてパネル等を用いて紹介しました。本展示会の総来場者数が主催者予想を大きく上回り、社会の産学公連携の関心の高さを実感しました。山口大学関係の3ブースを隣接して設置したことや、関係者全員がはっぴを着ての参加だったこともあり、新聞に取り上げられるといったハプニングもありました。今年度も特許流通フェアをはじめ多数のフェアに参加し、産学公の架け橋となるような活動を行っていきたくです。



## 徒然日記

### 九月は日奈久で山頭火

今年も9月がやってきた。「九月は日奈久で山頭火\*」とは、私の前任地熊本県八代市の日奈久温泉で、平成12年から毎年行われている街おこしのイベントです。毎年「山頭火シンポジウム」が開催され、山頭火の俳句について著名人によるパネルディスカッションや音楽会などの催し物が行われています。もう一つのイベントは「山頭火ウォーク」です。球磨川の河川敷運動公園から日奈久「温泉神社」までの約12kmのコースを途中、一日山頭火になり一句ひねりながらのウォーキングを楽しみます。ご褒美はおにぎり2個、たくあん二切れ、日奈久名物ちくわのお弁当と温泉無料入浴券です。もちろん今年も参加しました。残念ながら記念句会の入選は果たしませんでした。来年は「山頭火シンポジウム」の全国大会が開かれるとのこと、是非参加したいと考えています。



小崎 侃さんの木版画

私が山頭火の句に触れたのは、熊本県球磨郡湯前町にある「湯前まんが美術館」での展示会でのことでした。「分け入っても分け入っても青い山」の句と漫画で表現された行乞姿で山に分け入る山頭火が印象的で、私の大好きな句の一番ひとつに挙げられます。

山口市の湯田温泉翠山荘前に「ちんぼこもおそろも湧いてあふれる湯」という句碑があるのをご存知でしょうか。酒と温泉を愛した山頭火にあやかって、この秋、旅に出てみませんか。いい発明のアイデアが浮かぶかかもしれませんよ！

\*放浪の俳人「種田山頭火」は、明治15年12月3日、現在の山口県防府市八王子2丁目13に生まれ、大正5年5月に熊本市に転居、昭和5年9月9日、八代・人吉・鹿児島・宮崎・大分・福岡県を巡る行乞の旅に出ています。

(文：研究協力課 課長 下川 辰彦)



## 今月のSMILEさん

知的財産本部で佐田教授の秘書をしております、田中りほです。

「磯野貴理子に似てる！」とよく言われます。イエイエ、顔ではありません。無駄に明るいところが、です。得意科目は音楽と体育。親に期待された兄とは違って、自由にのびのびと(モノも言いよう)育てられ、その結果、人見知りしない「女は愛嬌！」の道まっしぐらの大人になりました。でも、この性格のおかげで英語、韓国語、手話が片言ながら話せるようになり、多くの人との交流を通じて視野が広がったように思います。

私の拙い詩を知財レターで取り上げて下さりお恥ずかしい限りですが、この「心の声」は、ある聴覚障害者との会話から生まれました。彼らは、手話という美しい言語を持っているにも関わらず、たまたま音を識別できない耳を持っただけで「障害者」と言われています。でも私達健聴者は、騒音の中では会話のできない「障害者」になってしまうことを自覚しているのでしょうか？

農繁期になり、耕運機や稲刈機に乗ると「障害者」になる農家の長男の夫に、「手話を習ってよお」とせつつこの頃です。

(文：田中 りほ)

### 心の声

田中りほ

その人は  
手で歌をうたい  
目で話を聞きます  
左手の甲を右掌で撫でるしぐさ  
それが「大切」という手話  
大切という言葉は  
物を大切に使う時も  
相手を大切に想う時も  
口から出ると同じ音だけれど  
その人は  
「大切な人」という時には  
突き出した手を撫でるのではなく  
手を胸に当てて  
心の声を手に伝えるかのように  
区別して話します

ニュースを見てるとつらい  
世界のあちこちで戦争が起こり  
たくさんの人達が死んでゆく  
大切な人を失った人達を思うと  
私も悲しくてたまらない  
その人の細い指が  
濡れた瞳から涙を作り  
その人の言葉を読んでいる私まで  
切なくなってしまう

太陽の光にどんな音があるのか  
桜の花が咲く時にどんな音がするのか  
耳の聞こえる私には思いもよらなかった  
その人の手が投げかけてくる疑問に  
実のところ  
その人の方が  
あらゆるものの持つ本当の声を  
聞こえているのではないかと思うのです



® 申請中

知的財産本部はあなたの  
発明を守る支援隊です

編集局長  
監修・編集長  
企画・構成・編集  
発行所・お問い合わせ

佐田 洋一郎  
加納 好昭  
坂野 文恵  
山口大学知的財産本部  
〒755-8611  
山口県宇部市常盤台2-16-1  
TEL (0836) 85-9966 FAX (0836) 85-9967  
E-mail chizai@yamaguchi-u.ac.jp  
ホームページ http://www.chizai.yamaguchi-u.ac.jp